

## 第5回 北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議 議事概要

1. 日時 令和6年2月21日(水) 13:30~15:45

### 2. 議事

(1) サイクルルート連携協議会からの取組状況報告

(2) ルート協議会からの取組状況報告

きた北海道ルート/石狩川流域圏ルート/阿寒・摩周・釧路湿原ルート/トカプチ400/富良野美瑛サイクリングルート/オホーツクサイクリングルート/石狩北部・増毛サイクルルート/羊蹄ニセコエリアサイクルルート/オロロンライン・サイクルルート

(3) 委員からの助言・意見交換

(4) ルート協議会の新規応募

どうなん海道サイクルルート

### 3. 議事概要

(1) サイクルルート連携協議会からの取組状況報告…資料1

#### ■サイクルルート連携協議会 事務局

・推進方針実施項目に基づいて連携協議会の取組を紹介。

〈統一基準の整備〉

・北海道開発局：案内看板や路面表示等の仕様基準を定めて運用中。

〈情報提供〉

・道商連：サイクルPR冊子を発行。

・SBW支援センター：サイクルルート北海道HPを継続的に更新。

・北海道：「もっと、自転車北海道。」SNSで定期的に情報発信。

・北海道運輸局：観光庁の補助金を活用してサイクルツアーHPの多言語化を実施。

・北海道開発局：フォトコンテストを実施。自転車利用環境向上会議等に参加しPR。

〈サイクルツーリズムのブランド力確立・向上〉

・道商連：サイクルPR冊子を活用して台北国際旅行博で情報発信。

・SBW支援センター・北海道観光振興機構：ATWSでツアーを催行・支援。

〈企業連携〉

・SBW支援センター：知床半島サイクリングの試行、シーニックルートとの連携等を実施。

・北海道：公共交通と連携したモニターツアー、民間企業等と連携したイベントを開催。

・北海道観光振興機構：地域観光団体と連携したモニターツアーを開催。

・北海道運輸局：ファットバイクツアーやバーベキューツアー等を造成。

・北海道開発局：包括連携協定を結ぶセイコーマート152店舗にサイクルラックを設置。

〈ベンチマーク収集〉

・SBW支援センター：札幌駅北口のゲストハウスのレンタサイクル貸出台数を定量的に把握。

- ・北海道開発局：各ルートのレンタサイクル貸出回数や自転車交通量を把握。

〈その他〉

- ・道商連：官民連携した情報意見交換を実施。
- ・SBW支援センター：トンネル付近で反射バンドを配布。また、自転車映画上映会を開催。
- ・北海道：クラウドファンディングでサイクルオアシスを整備し、PR活動等を実施。
- ・北海道：標識や路面表示を整備。地方版自転車活用推進計画策定に向けた説明会等を実施。
- ・北海道開発局：北海道のサイクルツーリズム推進フォーラム、ベスト・サイクリングプロジェクト等を実施。

〈推進方針改定について〉

- ・上位計画の見直しや多様なサイクリストへの対応等を踏まえて改定を検討予定。

## （２）ルート協議会からの取組状況報告…資料２

### ■きた北海道ルート

〈ルート概要〉

- ・ルートは旭川から宗谷岬の313.1kmと利尻島一周の59.3kmの2つ。合計372.4km。
- ・1つ目のルートは、天塩川とJR宗谷線に並行し、農業景観や河川景観等を楽しめる。2つ目のルートは利尻山の周りを一周できる。

〈ターゲット〉

- ・長距離をセルフガイドできるサイクリスト。一本道のためセルフガイドでも楽しめる。
- ・アクティブな旅を求める旅行者。カヌー等移動も楽しめるプログラムを提案。

〈現在力を入れている取組〉

- ・地元のバス会社と連携して稚内及び利尻島でサイクルバスを運行。
- ・パトロールカーが応援カーとしてサポート。
- ・フルサポートで楽しめるTEPPEN-RIDEというイベントを企画。

〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・国内外の情報発信強化。特に台湾。地元のDMOと連携して旅行商品を開発中。

〈課題〉

- ・おもてなしの気持ちが少し薄いため、共通認識を持つように啓発活動を実施。
- ・JRとの連携。釧網線等の事例を参考にしながら進める。
- ・レンタサイクルの乗り捨て。利尻・礼文含めて仕組みを検討中。

### ■石狩川流域圏ルート

〈ルート概要〉

- ・石狩川流域圏会議・道路管理者・河川管理者の札幌開発建設部・旭川開発建設部・札幌建設管理部・旭川建設管理部で構成。
- ・魅力は大雪山の国立公園や北海道遺産。田園・河川地域でロングライドを楽しめる。
- ・石狩・空知・旭川・美瑛では地域ルートも設定。
- ・ゲートウェイは、新千歳空港・旭川空港・JR旭川駅。インバウンド等の取り込みも期待。

〈ターゲット〉

- ・ロングライドを楽しむサイクリスト。
- ・ゲートウェイとして空港や駅を設定。道外・インバウンドの需要も期待。

〈現在力を入れている取組〉

- ・サイクリングマップや見所ガイドを作成。空港・道の駅・コンビニ等に置き情報発信。

〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・サイクリングマップ等を活用し、自治体情報やサイクルルート情報を広く発信したい。
- ・ルートの走行会等を実施して、走行環境や受入環境の現地確認予定。
- ・令和5年度走行会のアンケート意見について、各管理者に改善要望をしていきたい。

〈課題〉

- ・案内看板路面表示の整備が遅れている。共通認識を持つ事・財源確保が課題。
- ・将来はHP等を活用したPRを実施したい。管理運営方針や掲載項目等を検討予定。

## ■阿寒・摩周・釧路湿原ルート

〈ルート概要〉

- ・2つの国立公園を巡るルート。

〈ターゲット〉

- ・本格的なサイクリストや初心者・インバウンド観光客。電動アシスト自転車等も活用しながら優しいルート作りを目指す。

〈現在力を入れている取組〉

- ・ルート協議会について、今年度から3部会制に変更した。また、HPの作成等を実施。
- ・昨年11月6日に道東ブロック合同で申請予定の地域ルートを走行し、意見交換会を開催。

〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・各構成市町村に1つ以上地域ルートを作り、基幹ルートと連携したい。
- ・サイクルトレイン等との連携を図りながら、道東3ブロックで連携した取組を継続したい。

〈課題〉

- ・今年度から3部会制に変更したが、今後の取組内容や役割分担・連携が課題。
- ・今後部会での取組が拡大した場合、財源不足。補助金制度などの活用も視野に入れたい。

## ■トカプチ400

〈ルート概要〉

- ・高速道路を使った来訪者のために音更の道の駅を新たにゲートウェイとした。

〈ターゲット〉

- ・地域住民にどのように自転車に乗ってもらうか検討中。地域住民のための活動であれば理解が得られやすく、来訪者にとっても非常に走りやすい環境となっていく。

〈区間設定〉

- ・403kmを8つのルートに区分。

〈現在力を入れている取組〉

- ・区間設定について情報発信するためのパスポート製作を実施中。

- ・受入施設の充実を目的にサイクルラック・空気入れ等の備品を民間事業として貸与。

## ■富良野美瑛サイクリングルート

### 〈ルート概要〉

- ・富良野美瑛地区6市町村に跨るルートで、全長276.8km。ジェットコースターの道・ファーム富田等様々な観光地を巡ることができる。

### 〈ターゲット〉

- ・変化に富んだコースを活かして、全てのサイクリスト。
- ・地元住民。地元の人が自転車に乗りやすい環境整備を議論。安全教室などを開いていきたい。

### 〈現在力を入れている取組〉

- ・現場の声を聞く事。地元のガイドやサイクリストの皆さんに協力いただいて体制を構築し、試走会等を実施。
- ・試走会等の意見を踏まえたルートの再構築。
- ・スノーサイクルフェスティバルやスキー場のファットバイクダウンヒル等を開催。

### 〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・地元のサイクル関係者に協力いただき、特にルートの再構築に力を入れたい。
- ・ナショナルサイクルルートの登録を目指していきたい。
- ・6市町村の全てが主体となったロングライドイベント等を実施したい。

### 〈課題〉

- ・各市町村の財源だけでは路面表示の維持管理について限界を感じている。
- ・有事の際のインバウンド観光客の受入として病院側の外国語対応・情報提供等が課題。
- ・ルート協議会メンバーが他の観光対応によってサイクル関係に費やす時間がない。
- ・将来公共交通機関との連携を図っていききたいが進んでいない。

## ■オホーツクサイクリングルート

### 〈ルート概要〉

- ・女満別空港をゲートウェイとして全長約321km、2市3町を通過。
- ・美幌峠の頂上では、阿寒・摩周・釧路湿原ルートと繋がっている。

### 〈現在力を入れている取組〉

- ・いいとこどりサイクリングツアーを実施。好評で、令和5年度では60名利用。
- ・サイクリスト応援カーの取組を実施。今年度の実績は1件。活動を知った他事業者から協力の申出があったため、今後協力事業者の拡充を図っていきたい。

### 〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・サイクリングイベント「オホサイ」。1泊2日の宿泊型ロングライドで、令和6年7月13日・14日に開催予定。
- ・ステージの具体化に向けた検討。ステージの区間設定を踏まえ、情報発信や受入環境などを検討。今回記載した区間設定の考えはイメージのため、条件等を今後ご教示いただきたい。
- ・JCTA認定ガイドとハッカミントエクスプレスを活用し、道東3エリアと連携した活動を検

討したい。現在、観光庁の交付金、特別体験事業を活用し、申請書を提出中。

〈課題〉

- ・ 網走市内の国道39号大曲交差点は左線導流路を走行し、迂回感が大きい。令和6年度は、施設管理者と協議をした上でルート見直しを引き続き検討予定。

#### ■石狩北部・増毛サイクルルート

〈ルート概要〉

- ・ 安全・快適に走ることができる環境の構築を目標として4市町村で進めている。
- ・ 290kmと長い、海・湖・坂等があり、走行環境のデパート。長いからこそ魅力がある。

〈課題〉

- ・ 案内看板等整備の進捗度合いに濃淡がある。
- ・ 投資効果として整備したが、効果をどう数字的に見せるかが課題。

〈区間設定〉

- ・ 12月に意見交換会を実施し、現在検討中。休憩施設等を基点として9つ程度に分けている。
- ・ レベルに合わせて各個人で走る場所をチョイスしてもらう事や市町村の特色を意識しつつ、安全に配慮して検討を進めたい。

〈現在力を入れている取組〉

- ・ ガイドツアーを初級・中級の2回に分けて実施。石塚氏がルート監修及びティーチング。参加者が安全快適に走れるような先導役となっていただく事を祈念。

#### ■羊蹄ニセコエリアサイクルルート

〈現在力を入れている取組〉

- ・ サイクリストと大型車の安全講習会を8月9日に苫小牧で実施。
- ・ 国道393号線樺立トンネルで注意喚起装置の試験設置が実施された。
- ・ ニセコのリゾートエリアの道道343号線で車間距離確保の注意喚起看板を設置。
- ・ エゾイチの道道のうち、亀裂が入った路面の道路整備を実施。

〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・ 道路協力団体に認定されたため、サイクルステーションに自販機・物販等を充実させたい。
- ・ 道路パトロールカーに救援物資を積む予定。メンテナンス講習を実施したい。全道規模でパトロールカーに消耗品を乗せて電子マネー等で決済できればよい。
- ・ オリジナルHPのリニューアルをしたい。
- ・ 看板の番号を大きいマップに載せて、消防署や警察等に配布したい。有事の際に、場所を伝達しやすくする。
- ・ 2026年国際大会・チャンピオンシップ大会が本地域で実施予定。全面道路封鎖する予定。

#### ■オロロンライン・サイクルルート

〈ルート概要〉

- ・ 延長145kmで留萌地域8市町村を繋ぐ。石狩北部・増毛ルートときた北海道ルートに接続。

- ・日本海とサロベツ原野に挟まれており風車や利尻を眺望。
- ・昨年度新規のサイクルルートとして応募し9番目のルートとなった。

〈現在力を入れている取組〉

- ・基幹ルートの設定。地元関係者・隣接ルートの関係者やトカプチの爲廣会長にもお越しいただき、オロロンラインを内外に認知していただくための試走会「自転車開き」を開催。萌える天北オロロンルート実施イベントとも連携して、拡大イベントとして実施。
- ・今年度は基幹ルートを設定したので、現在は地域ルートの開発に力を入れている。留萌川の河川堤防コースの磨き上げとして官民で連携しながら、仮設の案内看板設置の試行やアンケート調査を行っており、将来的に地域ルートに仕上げていきたい考え。
- ・ロゲイニングとはあらかじめ決められたチェックポイントを自転車で出来るだけ多く回り、獲得した点数を競うスポーツのことであるが、道の駅「るもい」を拠点にまちなかを自転車や徒歩で周遊するロゲイニングイベントを開催した。このようなイベント積み重ねながら、まちなか周遊ルートを構築し、将来的に地域ルートにしたい。

〈ターゲット〉

- ・基幹ルートでは、中・上級者やスポーツバイクビギナー。
- ・地域ルートでは、ファミリー層やライト層。
- ・あらゆる世代が自転車に乗ることができる環境の創出に力を入れている。レンタサイクルの拡充等を実施して、ステージの考え方に枠組みをはめていきたい。

〈将来取り組んでいきたいこと〉

- ・超広域サイクルネットワーク構築。本ルートができて、隣接ルートと接続したことで、道央から道北一円の概ね700kmの超広域サイクルネットワークの構築ができるようになった。
- ・バス路線との連携。ゲートウェイまでのアクセスが非常に弱い地域。交通事業者ヒアリング結果より、公共交通へ自転車を持ち込む際のルールの検討が必要。

### (3) 委員からの助言・意見交換…資料3

#### ■東京工業大学 特命教授 屋井委員

- ・活発な活動が各地で行われて、ますます発展している。
- ・路面表示の維持管理について、白線の更新と同じタイミングで更新できれば良い。北海道は除雪で消えやすい懸念があったが、北海道でも成立するという印象を持った。
- ・自転車活用推進計画について、都道府県ではサイクルツーリズム重視で、自治体は市民安全確保重視。従来のネットワーク計画や安全計画とセットで考える。市民の積極的な関与は素晴らしい。自転车上級者に加えて幅広い多くの方を加えた会議体での推進がよい。
- ・サイクルバス積込ルールについて、今後の利用促進のために重要な検討事項。できるだけ情報を集約して、分かりにくさをなくす。

#### ■NPO 法人日本風景街道コミュニティサイクルツーリズム研究委員会 顧問 宮内委員

- ・統一仕様のマップマップ・案内看板・路面表示があり、わかりやすく、利用者にとってルートが分かりやすい。

- ・「オホーツクサイクリングルート」試走の際、プライベートで美幌峠に行ったが、雨と霧の下りでも案内看板を認識でき、ユニバーサルデザインとなっていることが確認できた。ナンバリング方式と青地に白抜き文字のデザインは大正解。
- ・10ルート目ができルートが増え、完成形であるネットワーク化が進んできている。
- ・ステージ制を導入して、細分化した区間ごとの難易度・特徴等情報を提供しターゲット層に向けて発信できれば利用が増える。
- ・電動アシスト自転車のレンタルが全国の観光エリアで普及している。例えばしまなみ海道では、民間のレンタルサイクル業者が10数社に増えそれぞれ扱い車種など差別化を図ってすみわけができている。
- ・サイクルトレインは実現すれば沿線住民特に交通弱者の福利厚生にもつながる。全国的に見ると実装が遅れているので進めてほしい。
- ・台湾一周の「環島」のようにブランド力を高めればサイクリストが増える。SNSを活用して、北海道のサイクリングを一つのムーブメントとして盛り上げる。「北北海道ルート」の宗谷岬にある「白い道」は、インスタ映えするのでインバウンド誘客の起爆剤となりうる。

#### ■北海道大学大学院工学研究院 教授 萩原委員

- ・ルートが増えてきて北海道内網羅。観光地巡りだけではなく体験型で短いサイクリングもできる。発展していると感じている。それぞれのルートが課題も考えながら取り組んでいることが素晴らしい。成果が出てくれば更によりルートになってくる。
- ・昨年オロロンを羽幌から走った体験が印象に残っている。体験してもらうのが良い。旅行は2、3年で飽きられる。その時に体験型ツーリズムを提供していければよい。
- ・トンネル対策も各地で進めていってほしい。

#### ■北見工業大学 地域未来デザイン工学科教授 高橋会長

- ・裾野を広げることは重要。そのためにスイスマビリティを参考にステージ設定することが大切。ターゲット・難易度を決めて発信しつつ、道の駅等拠点を整備できればよい。
- ・坂が好き・長距離を走る上級サイクリストもいる。サイクルートを繋げた長いルート、最終的には全道サイクルルートができればよい。公共交通の連携・レンタサイクルの広域的貸し借り等が必要、長い目で全道サイクルルートの展開ができればよい。
- ・道路上にサイクリストがどれだけいるか、行政が集計すべき。やり方も含めて検討が必要。地域に落とし込むときにデータを持っていることが大事。
- ・協議会の持続可能のために、道路協力団体の認定やSBWとの連携などによって予算を工面できるか。長期的な予算措置を含めて協議会の事業展開を考えていく。
- ・次のステージに向かっていく段階となっている。見直しも含めて重要な時期だと思っている。

#### ■一般社団法人自転車協会 理事 加藤委員

- ・初心者層が自転車協会でも問題。子供対象自転車教室を協会を考えていて、教室の形式を議論中。子供が自転車に乗って楽しんでもらえることや安全に乗ってもらうことを教えることが必

要。

- ・地域の方たちに自転車に乗ってもらうと地域連携ができるようになる。人と自動車、自転車が共存できる空間を創出できれば良い。協会での検討をフィードバック予定。

#### 〈路面表示の維持管理〉

##### ■富良野美瑛サイクリングルート

- ・市町村ごとに予算バラバラ。富良野市は20万/年で10箇所程度しか補修できない。シールや看板の方が良いとの意見もあるため、今後検討していきたい。

#### 〈自転車活用推進計画〉

##### ■トカプチ400

- ・大樹・更別・鹿追・上士幌・士幌で素案を作っている。できれば全市町村作りたい。
- ・どのようなメリットがあるか知らない市町村もいる。道庁もあわせて協力いただきたい。

#### 〈レンタサイクルの乗り捨て〉

##### ■きた北海道ルート

- ・稚内から宗谷岬は実施中。範囲を広げて、利尻・礼文でもできればよい。

#### 〈裾野を広げる活動〉

##### ■羊蹄ニセコエリアサイクルルート

- ・倶知安経営者層は自転車に乗る人が増えた。最近では倶知安商工会議所主催でサイクリングイベントも開催。自分たちが楽しく走っていることを認識されて仲間が増えてきたため、まずは自分たちで楽しく走ることができればよい。

##### ■オロロンライン・サイクルルート

- ・時間制限内にポイント巡って点を競う「ロゲイニング」というイベントを実施。歩きや走りも可能だが自転車だとエリアが広がる。イベントという切り口で「自転車に乗ったらもっと面白い」と思ってもらえるようなアプローチをした。

#### 〈ルート間連携〉

##### ■阿寒・摩周・釧路湿原ルート

- ・R5年度11月に十勝・オホーツク・釧路で弟子屈町の地域ルートを選定して走行。

#### 〈誘客に向けた取組〉

##### ■きた北海道サイクルツーリズム連携会議

- ・大晦日に稚内へ年越しに向かう自転車が増えている。どう思うか。

##### ■NPO法人日本風景街道コミュニティサイクルツーリズム研究委員会 顧問 宮内委員

- ・台湾では自転車で一周する環島（ファンダオ）が国民的人気アクティビティとなっている。ブランド力を高められればもっとサイクリストが増える。SNSを活用する等、一つのムーブメントとして盛り上げる。白い道はインスタ映えする。うまくやればインバウンドの起爆剤となる。

#### （４）ルート協議会の新規応募…資料４

##### ■サイクルルート連携協議会 事務局

- ・どうなん海道サイクルルートが道内 10 個目のルートとして追加となる。